



2003年7月14日

セカンドハンド通信 NO.33

NPO法人セカンドハンド 本部事務局 〒760-0055 香川県高松市観光通1-1-18
 TEL&FAX 087-861-9928 発行責任者・新田恭子
 E-mail: 2nd-hand@eskimo.com http://www.eskimo.com/~2nd-hand/



医療支援、決定！

プノンペン中心部から車で45分ほど走ったアンロンクナンに、今回セカンドハンドに支援要請があった診療所があります。この地域には、2001年11月に川沿いのスラムで起きた大火事で焼け出された3,500家族、約13,000人が住んでいます。

診療所は、20畳程の簡素な建物で、ボランティアの医者が1日に2時間、50～100人の患者を診療しています。プノンペン市保健局がNGOと協力し、社会的弱者、特に貧しい家庭の女性や子供が基本的な医療を受けられるように基金を設けて運営しています。診察と三日分の薬で、大人が500リエル（15円）、子供は200リエル（6円）ですが、それを払えない患者は基金から薬代を出し、無料で診察が受けられる制度となっています。また、診療所から病院に送られて治療を受ける場合や、病院での出産の費用が払えない場合も基金から援助して最低限の医療を受けられるような環境を整備しています。この診療所を含めた3地域（Boen Kok, Samaki）の24,000人がこの支援の対象人口となります。

現在、ロックフェラー財団やWHOに資金援助を申請しているそうですが、その支援を受けるまでの間、運営する資金が不足しており、セカンドハンドに協力要請がありました。

人々は貧しい中でも笑顔を忘れず暮らしていますが、栄養失調や不衛生など健康を害する条件があまりに多く、大変厳しい状況です。とりわけ深刻なのは、結核とエイズの拡大です。

貧しいことはそれだけで不幸なことではありませんが、貧しさのために本来もっと生きられる命が失われてしまうとすれば、それはとても不幸なことです。セカンドハンドは、そうした命の一つでも多く救うために、医療支援を決定しました。学校建設支援で建物が完成するのは違い、医療支援には明確なラインがありません。けれど、命の重さは日本でもカンボジアでも同じです。私たちが支援することで、地域の人々が安心して医療を受けられるようになります。

6月の総会で、2003年7月～12月で28,000ドル（約336万円）の支援が決定しました。皆様のご理解とご支援をよろしくお願いします。



診療所には医療機器も不足しています。

スラム街の住居。
6/26の嵐で100戸が倒壊したそうです。

支援校は10校舎目完成！ セカンドハンドも活動10年目突入！

2003年3月に着工したアング・モントレイ小学校が6月末完成しました。この小学校を舞台として、子供達が夢を叶えていくのが楽しみです。

私達セカンドハンドも10周年に向けてまた一歩、着実に踏み出します。



センター前に作られた簡易ステージ。国歌斉唱のシーン。

スヴァイリエン州 職業訓練センター完成！

5/22 オープニングセレモニーに列席してきました。



支援校&訓練センター関連記事→P3

CONTENTS

P2 総会、フォスターペアレント

P3 職業訓練センター完成！足踏みマシン到着！

P4～5 カンボジア・スタディーツアー報告

P6 事務局スタッフ Thanks

P7 支部だより セカンドハンド学生部「小指会」発足

P8 information

SECOND
HAND

「セカンドハンド」は皆様から無料提供していただいた衣類や生活用品を販売し、その収益金すべてを援助にあてるチャリティショップです。主にカンボジアでの学校建設や識字教育など、教育支援をおこなっています。また、カンボジアの地雷による障害者など、経済的、社会的に立場の弱い人たちが作る商品を現地のNGOから輸入し、販売することで、自立を支援しています。店舗や倉庫は無料でお借りして、お店番などの活動は無償で働くボランティアスタッフが支えています。

1週間に1度、2時間程度で結構です。あなたもボランティアで世界の誰かのために役立ってみませんか？

セカンドハンド平成15年度総会が開催されました。



カンボジアで作ったシルクの衣装で報告。
自分でデザインしました。

6月29日(日)、平成15年度総会が高松市錦町会館(女性センター)で開催されました。

スタッフや支援者、約40名の参加があり、事業・会計の報告/計画などの議案が満場一致で承認されました。

総会に引き続き、5月に開催したスタディーツアー参加者のカンボジア報告会を行いました。冒頭、ビデオでツアー全般を紹介し、続いて支援先視察やホームステイで感じたこと、カンボジアの抱える問題等、参加者それぞれの目から見たカンボジア報告が行われました。

「日頃の小さな活動の積み重ねが、カンボジアへと着実につながっていることが実感できて良かった」「参加者の鋭い視点と最新のカンボジア報告は素晴らしいかった」というスタッフや一般参加者の声をいただきました。

食事をしながらの懇親会では、福岡や京都支部の方たちと共に、セカンドハンド、そしてカンボジアへの思いを語り合うよい機会になりました。

*収支・会計報告はホームページでご覧になれます。

今年の支援予定

- 医療支援
- 職業訓練センター運営支援
- ホームランド孤児院施設建設支援
- フォスターペアレント事業
- 小学校建設
- フェアトレード事業

皆様の御協力をよろしくお願いいたします!

★事業を指定して寄付できます。同封の振替用紙を御利用下さい。



カンボジア報告は聞き応えがありました!

フォスターペアレント事業

ホームランド孤児院の子ども達に支援を!



セカンドハンドは昨年、支援活動の一つとして、フォスターペアレントプログラムを立ち上げました。現在までに17名の方がフォスターペアレントとして登録され、ホームランドに暮らしている子供に支援を行っています。

ホームランドはカンボジアの現地NGOであり、カンボジア人によって運営されている施設です。様々な事情により親元で生活ができない子供たちに安全な生活環境を提供し、教育や職業訓練の機会を与え、親元へ再び戻れるように、あるいは自立して生活できるように物質的そして精神的なサポートを行うことを目的としています。

現在カンボジアではストリートチルドレンや人身売買等、子供たちが犠牲になるケースが後をたちません。ホームランドで生活する子供たちも隣国タイに売られ、物乞いや荷物運びをさせられたり、路上での生活を送っていた子供たちです。95名いる子供たちの中で38名が人身売買被害者、43名がストリートチルドレン、そして14名がHIV/AIDS孤児です(2002年現在)。

ホームランドでの子供たちの生活を少しご紹介しましょう。子供たちの多くは就学年齢のため、午前中は小学校に通っています。午後ホームランドに戻ると、勉強したり、友達と遊んだりして過ごします。比較的年長の子供たちは職業訓練を受けたり、女の子はミシンを使って裁縫を習います。また、クメール伝統音楽を習う子もいます。(カンボジアでは内戦時代に多くの伝統芸能や技術が失われ、その復興に力を入れています)

ホームランドではこのような子供たちを経済的に支援していけるように、セカンドハンドと共にフォスターペアレントプログラムを開始しました。フォスターペアレントの申し込みを行うと、まずホームランドでマッチングを行い、支援する子供を決定します。その子供に対し、申し込みの際に選択した額を毎月あるいは一括で、銀行引き落としなどの方法でセカンドハンドに支援金を送ります。支援金額は4種類(毎月・¥1500、¥3000、¥5000、¥7000)あります。支援金はセカンドハンドからホームランドへ責任をもってお届けします。また、フォスターペアレントにはホームランドから子供の様子についての定期的レポートをお届けします。

まだ改善していく点も多い活動ですが、できるだけ多くの子供たちを、長い期間支援していきたいと考えています。

関心のある方はぜひ本部までご連絡ください。詳しい資料をお送り致します。



日本の里親へのメッセージ(絵)を書く子ども。

☐ セカンドハンド皆様のカンボジアへの多大なる支援に感謝しています。皆様の健康と益々の発展を祈念します。カンボジア人はこの愛を決して忘れないでしょう。(9周年記念日にカンボジアで、ラチャ代表シバナさん)

スヴァイリエン州 職業訓練センターオープン!!



完成した職業訓練センター



指導者として働く8人の女性もおめかし。

カンボジア政府からセカンドハンドに授与された国家復興功労メダル



昨年10月の地鎮祭後、建設していたセンターが完成し、開所を祝うセレモニーが周辺住民約1,000人列席のもと開催されました。セカンドハンド新田代表の挨拶に続き、平和行進で名高い高僧マハゴ・サナンダ氏、スヴァイリエン州フン・ネン知事(フン・セン首相の実兄)から御祝辞と感謝の言葉がありました。テープカット後、建物内を視察して式典は結びとなりました。

職業訓練プロジェクトとは

セカンドハンドが建設支援したスヴァイリエン州ピートゥヌー小学校周辺の女性を対象にした事業で、ミシンの技術を身に付け、クラフト品を製作することで、現金収入を得られるようにするプロジェクト。指導者となる人材育成、センター建設、3年間の運営支援をトータルで実施。

なぜ?

2000年のスタディーツアーである児童の母親からスヴァイリエンには産業がなく、特に女性たちは厳しい環境におかれているという話を聞かされました。仕事を求めて都会に出た女性たちがだまされて人身売買の被害に遭っている事実を聞いてはいましたが、セカンドハンドが建設支援した小学校区内の、目の前の女性や児童もそのような状況に直面しているということを知り、貧困が原因で繰り返される悪循環を断ち切るために、職業訓練プロジェクトを企画しました。即効性はないかもしれませんが、このプロジェクトにより、将来女性たちが自ら生計を立てられる(基本的な自立)だけでなく、仕事を持つことで、自信や生き甲斐を持って生きられる(精神的な自立)、また地域コミュニティの活性化にもつながる礎を築くものである、と確信しています。

足踏みミシン、7/1カンボジアに到着!! 職業訓練センターで早速活躍しています!

5月末にカンボジアに上陸していた足踏みミシンですが、輸入手続きに手間取り、予定よりかなり遅れましたが、無事7/1に届けられました。

集められたミシンは81台。香川県のみならず県外からも「大切にしていたミシンを再び活かしてほしい」ときれいに整備され、届けられました。「嫁入り道具だった」「父が買ってくれた形見」とそれぞれ手放し辛かったミシンが、カンボジアの女性の役に立つのであれば本望と喜んで提供して下しました。



40ftのこのコンテナでミシンはカンボジアへ旅立ちました!



倉庫に並んだミシン

狭い香川県ですが、それでも一軒ずつまわると相当の時間を要します。そこで、助っ人として現われたのが林田物流(坂出市)さん!「よっしゃ、手伝いませよ!」の社長の一言、社員皆さんの全面的な協力で、述ベトラック5台で県内一斉集荷。そして梱包、コンテナの積み込みまで無償で請け負って下さいました!

そして、テラシマミシン(綾歌郡綾歌町)さんはこの事業の立役者とも言える方。一台一台、「カンボジアの女性たちがすぐに気持ちよく使えるように」と卓越した技術と愛情でミシンを整備して下さいました。

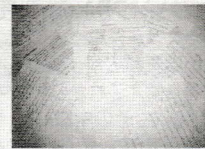
こういった方々の協力を得て、無事に女性たちの手にミシンが届けられました。皆さん、ありがとうございました!

ミシンに添えられた手紙は一足早くツアー参加者の手でカンボジアの女性たちに届けられました。カンボジア語訳された手紙に感動した女性たちから、返事が届いています。

輸送費	652,510円	この事業に対して(財)日本国際
運営費	125,490円	協力システムから左記の助成金を
計	778,000円	いただきました。



林田物流さん、ありがとうございました!



カンボジアの女性から預かったお礼の手紙

アング・モントレイ小学校完成!

<生徒のインタビュー>

ボブ・ボンロックさん(4年生)男子10歳。

新校舎の支援者の皆さんに深くお礼を伝えたいです。そして幸せです。友達に会えるし、勉強できるので学校に行くのが大好きです。国語が一番好きです。1学期のテストで1位となりました。

毎晩7:30から8:30まで石油ランプの明かりで予習・復習しています。学校に行っていないとき、ブタに餌をやったり、牛の世話をしたりして両親の手伝いをしています。新校舎で勉強することを楽しみにしています。

5月下旬のツアーで訪問した際には85%の完成でしたが、6月末完成したという連絡が入りました!セカンドハンド活動開始から10年目を迎えた今年の総会直前に、10校舎目の支援校が完成したという嬉しいニュースが飛び込んできました。



メン・マカラさん(4年生)女子12歳。

新校舎で勉強できることが待ち遠しいです。新校舎は雨や風が吹いても心配いりません。古い校舎は、雨や強風のたびに屋根や壁から水が漏れ、勉強ができないことがありました。

学校から1kmのところまで家が徒歩で通っています。特に算数を勉強して、将来計算が早くなって仕事に活かしたいと思っています。学校に行っていない時は料理、弟の世話、牛の世話、家の雑巾掛けをして母の仕事を助けています。

最後に、支援者皆様に新校舎へのお礼とご健康をお祈りいたします。

☒ カンボジア人である私にとってミシンは命のように大切なものです。永遠に使えるよう大切に管理します。本当にありがとうございます。(職業訓練センター、ヴァナラさんより)

カンボジアの力

若宮 武 (大阪外国語大学3年)



ビデオ担当の若宮君は好奇心旺盛。コオロギのフライ、タガメ、何でも食べてました!

高3の春以来、セカンドハンドに関わってきた。このボランティア活動の成果がカンボジアで実りつつある。小学校建設も二桁目に入った。その事実を自分の目で見たいと思った。また私は大学で開発環境学を専攻している。大学は有意義で、知識と考える機会を提供してくれる。しかし、自分が現地に入れば、どれほど刺激的な体験、学習ができるだろうかと思った。

5月19日から約3週間の滞在で最も強く感じたのは「カンボジアの力」だ。アングモントレイ小学校建設現場や職業訓練センターでの式典では、セカンドハンドの偉大さを見せつけられた。いつもの地味な作業からは想像できないような、地域社会に大きな影響を与えるプロジェクトが行われている。こういったプロジェクトが私にとっては周知の事実であったが、本当の意味では見えていなかったものだ。しかし、この、セカンドハンドのすごさよりも、もっと、私にインパクトを与えたのが「カンボジアの力」だ。これは出国前には予想も期待もしていなかったことだった。プノンペン市郊外のスラム、職業訓練候補生の家庭、孤児院の子供たちの過去など、カンボジアの深刻で残酷な現実を直視した。この衝撃も大学の机上の勉強では味わえない。しかし、この現実と正面から立ち向かう、カンボジア人にたくさん出会った。いわゆる、「現地NGO」だ。その元気さは学んではいたが、「救済者」である「NGO=先進国」という固定観念が自分の頭にあったことを初めて気づかされた。現地NGO代表者やスタッフ、地域の人々は、みんな自分の仕事に誇りを感じている。「カンボジアの力」に気づ

かされた上で、先進国の援助団体の役割というものを考えさせられた。開発学では流行り言葉となっている「自助努力」、「自立支援」。大学の授業でもたびたび登場するこの文句が生きている現場に來れたことは大きい。

帰国の途に着く他のメンバーと別れた後、私は毎日ホームランドの子供たちと汗みどろになって遊びつつ(遊ばれつつ?)、フォスターペアレントへの報告書作成などを2週間にわたって行った。2週間いたからこそ、子供たちの様でない表情を見てこれた。援助団体との関係といった世界的な面から、子供たちの昼寝の風景まで。目の前で汗だくになってサッカーをしている男の子が、ほんの数年前までタイで物乞いをしていたという聞きたくない事実も聞いた。現地ではほんの2週間ではあるが活動したことは本当に貴重な経験となった。開発問題やプロジェクトを外から見て学んできた、その視点が変わった。

今回のスタディーツアーがまさに勉強であったなと、ツアー中も毎日感じたし、帰国後もやはりそう思う。大学では学べないことをこのツアーで学んだが、だからといって大学での勉強が無駄だとか、空虚だとは思わない。むしろ、大学でもっと時間をかけて学ぶべきことが多いように再認識した。また、セカンドハンドでの普段のボランティア活動に対する意識も変わっただろう。カンボジアはそう遠い国ではない。またカンボジアの力を感じるために、行ってみようと思う。

同じ人として

後藤 尚子 (セカンドハンド事務局)

2年前のスタディーツアーに参加して以来のカンボジア訪問だった。プノンペンの整備された道路、大型店が並ぶその発展ぶりには目を見張るものがあった。街には以前と同じように3、4人乗りしたバイクが縦横無尽に走り回り、人々が溢れ活気に満ちていた。

プノンペンから南東へ、セカンドハンドが職業訓練プロジェクトを行うスヴァイリエン州に私達は向かった。そこには2年前と変わらない風景が広がっていた。完成した職業訓練センターでは、1年の研修を終えこれからセンターで働く女性達が翌日の式典の準備をしていた。その中に以前、村を訪問した時に会ったシナットさんの姿があった。見てと言わんばかりに満面の笑みでミシンを踏むシナットさん。彼女のその姿を見た時、胸の奥から込み上げてくるものがあった。シナットさんは小さい頃両親を失い、叔母夫婦に育てられた。その2人に恩返しをしたいと、僅かなお金を稼ぐため一日中キャンディの包装作業をして、ひどく手が荒れていたのを覚えていた。大学を卒業したばかりの私より1歳年下だった。今、目の前に



セレモニーは浴衣で列席。ツアー中、交流アイテムとして大活躍でした。右はしが後藤さん。

いる彼女の表情は明らかに自信に溢れ、生き生きしていた。そして事実、女性達は仕事ができることが本当に幸せだと目を輝かせ私達に語ってくれた。

センターの新訓練生選抜のための訪問調査では、2年前の彼女達と同じ状況の人たちがいた。毎日食べるのがやっとだが、働く技術も場所もない。セカンドハンドのプロジェクトが必要とされていた。

支援予定地のスラム街の視察では、声を失った。小屋のような小さな家が隙間なく並び、ゴミが至る所に捨てられ悪臭を放っている。そこで、HIVの末期患者に出会った。このスラムの半数以上がHIV感染者という。とても同じ世界のこと、現実とは思えなかった。カンボジアでエイズ問題は、深刻だった。毎日増え続ける感染者。多くの原因は貧困だという。私たちの支援は、この広がりにつづける被害を止められるのだろうか。

足踏みミシン提供者からの手紙を、目に涙を浮かべながら聞く姿に、日本の支援者の方々の気持ちが伝わっていると感じた。国が異なり顔も見たことのない人たちが、同じ人として支えあえていること、その「人」を結んでいるところにセカンドハンドの活動の素晴らしさを感じた。今回のスタディーツアーで、私の目の前にいたのは「カンボジアの人」ではなく、「同じ地球に住む人」と感じるようになった。

カンボジアの抱える問題はまだまだ多い。セカンドハンドの活動は支援者一人一人の力があってこそ。力を必要としている人たちに届けられるよう、日本で一人でも多くの力が集まるように努めていきたい。

カンボジア 藤田

このツアーを
というなら、カン
スヴァイリエ
ハンドの活動が
受け入れられ
希望している女
話を聞中で、
ているかがよく
解できた気がし
をしていたとい
技術者・教師な
れば処刑され
厳しい強制
大要

日程

5月19日~29日

参加費

16万円

12th カンボジア・スタディー



式典前夜、センター内での読経中の散華。ハスとジャズミンの生花でした!



老朽化した校舎の子供たち。将来の夢は?という質問に勢いよく手を挙げて答えてくれました。

と肌で感じた。

これから、こ
話す機会があっ
とがとても幸せ
の人達の事は
シン提供者の
くれた女性も
伝わっている
に付けた技術
けたい」等、た
プロジェクトは、
なものだと感
と思った。また、

★スタディーツアー報告書のノーカット版は、ホームページに掲載しています。 h

カンボジアで見つけたもの

藤田 隆子 (中学校教員)

このツアーをとおして学んだことはたくさんありますが、一言でいうなら、カンボジアがとても大切な国になりました。

スヴァイリエン州の職業訓練センターの開所式では、セカンドハンドの活動が具体的な形でカンボジアの地に実を結び、人々に受け入れられているということがよくわかりました。また、訓練を希望している女性たちへのインタビュー調査に同行して、実際に話を聞く中で、スヴァイリエンの女性たちがどのような生活をしているかがよくわかり、職業訓練センターの意義がより鮮明に理解できた気がします。中でも印象に残っているのは、かつて教師をしていたという54歳の女性のことです。ポルポト時代には医師・技術者・教師などは、潜在的な批判勢力と考えられ、経歴がわかれば処刑されたそうです。たとえ経歴を隠しとおせたとしても、厳しい強制労働と劣悪な栄養状態の中では生き抜くことは大変難しいことでした。彼女の指は、その強制労働のついで曲がったままになっていました。顔に刻み込まれたしわも深く、彼女が送ってきた人生の厳しさがにじみでているようでした。ポルポト政権崩壊後は自宅ですべてを育てるかと

わら、近所の子どもに読み書きをしていたそうです。教師に戻って、もしポルポト派が再び政権を握ったら今度は生きられないという恐怖があったのでしょうか。ようやく内戦がおさまり平和を取り戻したカンボジアですが、恐怖の記憶は今もなお人々の心に深く刻まれているのではないかと感じました。職業訓練プログラムに参加することで、彼女が再び笑顔を取り戻すことができることを祈らずにいられません。また、スヴァイリエン滞在の最終日には、ホームステイをしました。私がお世話になった家は、ガスも水道も電気もありませんでした。けれど、家族が助け合っている様子を見て、物質的には不便でも精神的にはとても豊かな生活を送っているのだと思いました。

カンボジアと聞くと内戦とか貧しさをイメージしがちです。けれど、それはカンボジアの一面でしかありません。貧しい国だからお金を恵んでやるという発想でなく、お互いを尊重しあって、足りないものや必要なものを分かち合うという気持ちが、大切なのではないかとことを考えさせられた10日間でした。



ホームステイ先の家族と家の前で。左のお母さんは仏門に入りドンチーとして生活。右から2番目が藤田さんです。

スタディーツアー



刻まれたレリーフのサラボース!

カンボジア

スヴァイリエン



式典前夜、センター内での読経中の散華。ハスとジャスミンの生花でした!

- アンロンクナン (スラム街、診療所視察)
- トゥールスレイ 虐殺博物館

帽子を被っている方がマハゴ・サナンタ氏、その隣がフン・ネン知事



- 職業訓練センター
- ホームステイ



職業訓練センター1期生候補者の自宅を訪問

今回私が一番楽しみにしていたのは、職業訓練センターのオープニングセレモニーである。当日は千人近い地域住民が参加してくれた。地域住民と共にこのセンターを建設し、これからセンター成功に向けて共にがんばっていくのだという、一体感を感じることができた。そして、日本での力がカンボジアで実を結んでいることをひしひし

と肌で感じた。

これから、このセンターで先生として働くことになる女性8名と話す機会があった。彼女達は「技術を身に付け、仕事を持てるのがとても幸せ。この機会を与えてくれた日本のセカンドハンドの人達の事は絶対に忘れない」と語ってくれた。また、足踏みシン提供者のメッセージを聞いて「泣きたい位嬉しい」と語ってくれた女性もいた。日本で頑張っている人の気持ちが彼女達に伝わっていることが、私も泣きたいくらいに嬉しかった。「今回身に付けた技術を使って困っている女性達を助けたい」「家計を助けたい」等、たくさんの夢と希望を彼女達は抱いている。このプロジェクトは、彼女達に夢や希望も与えており、とても大きなものだと感じた。だからこそ、必ず成功させなければならないと思った。また、今回セカンドハンドは彼女達に職業訓練センター

カンボジアの女性達

野口 洋子 (高校講師)

というきっかけを支援したが、これを機に、自分達で自立できる場所をさらに増やし、幸せに暮らせる環境を創って欲しいと思う。

また、スヴァイリエンでのホームステイでは自給自足の生活の大変さを感じた一方、この生活が素敵だと思った。なぜなら、子供は料理や洗濯、畑仕事、掃除をする親の姿に自然と触れることができるからである。また、人の繋がりが表面的でなく、自然な形で強くできている。近所の人達が行き来し、日が沈めば眠りにつき、鶏が鳴いて日が昇れば活動をするというように自然に則った時間の中で、家族を超えた大勢の人が時間を共有している事がとても素敵だと感じた。物質的には不足しているこの村には、私の中にはなかった心の豊かさ、自然と共に生きているという、人間の力を過信しない謙虚さが見られた。

地球上には様々な生活環境で生きている人々がいる。私は彼女達の『自然に密着して、人との繋がりを感じられる生活』を羨ましく思った。日本での生活は人間の体内時計に反していると感じた。送るべき生活スタイルはどちらが最善かという、それは分からない。ただ、人は時代と環境に合わせてそれぞれ独自の生活スタイルを築き上げ、一番快適な形にしているのだと感じた。

今回のツアーは、私にとって大変貴重なものである。それは、この時期の私だからこそ、そして、このメンバーと一緒に行動したからこそ、感じ取れた事がたくさんあるからだ。このツアーは自分を見つめ直す機会にもなり、大変内容の濃い10日間であった。これからの生活に活かしていきたい。



孤児院では夜遅くまでダンスで交流しました。一度も休まず踊り続けていた野口さんはタフ!



ボランティア 入門

in セカンドハンド

～運営委員会編～

■セカンドハンドの支援先や活動方針はどのように決めているのでしょうか？

支援先や日常の活動については、ボランティアスタッフ有志で組織される運営委員会で議論し、決定しています。

■いつ、どこで開催されているの？

毎月第2・4月曜日の夜7時半から、セカンドハンド本部事務所で開催しています。

■運営委員会のメンバーは？

店番や運搬、事務作業など、日頃の活動に関わっているボランティアの中で意欲と関心があるスタッフが参加しています。運営委員の数やメンバーは決まっているわけではありません。会議に参加でき、熱心で、ある程度セカンドハンドの活動に対する知識があり、その理念に賛同するボランティアが参加しています。

■運営委員会で話し合っている内容は？

日常活動の予定から、支援先の決定まで、幅広く話し合っています。チャリティーショップの運営方法について話し合ったり、本部主催のチャリティーイベントの日程や内容を決定したり、また支援の要請があれば、セカンドハンドとして支援すべきかどうかを色々な視点から議論し、判断しています。時には運営委員から議事の提案もあり、よりよいセカンドハンドを目指して、皆で智慧と経験を持ち寄っています。

■最近、話し合った内容は？

医療支援について、支援をすべきかどうか、またいくら支援すべきか。考えられる問題点などを話し合いました。

ボランティアスタッフからの意見 (日報のメモなどから) → 店舗ミーティング (月1回) → 支部、店舗ミーティング 事務局からの提案 → 運営委員会 規模が大きい場合 (日常活動の方針などを決定) → 理事会 → 総会 (団体としての方針などを決定)



■このコーナーのグッズはメール、FAXでお申し込みいただけます。

E-mail: 2nd-hand@eskimo.com

fax: 087-861-9928

FAX

GOOD GOODS

手提げバック

コットン (1069) ￥2,000

シルク (1087) ￥3,000

カジュアルにも、フォーマルにも使えます。

() 内の4ケタの商品番号で御注文下さい。

●売上金は女性の自立支援に充てられます。



カンボジア派遣ボランティア

カンボジアでのクラフト品開発に携わるボランティアに応募した山梨県出身の吉元由香さん(31)が5月6日に成田を出発し、現地で活動をはじめました。プノンペンに居を構え、地雷による障害者たちが立ち上げたNGO「PEACE」でボランティアとして奮闘中です。



事務局スタッフ着任ご挨拶

布施 勇姫 (フセウキ)

お買い物をする事で直接、そして着実にカンボジアへの支援につながっていること、セカンドハンドは多くの方々の方々の善意によって支えられていることを実感する毎日です。

まだまだ判らぬことばかりですが、頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。



●チャリティーCD「少しだけ」(全6曲) ￥1500

セカンドハンドに出逢ってできた素敵なレオンさんのやさしさ溢れる歌声とメロディー。

「今までより、少しだけ…頑張ってみようかな」という気持ちにさせてくれるCDです。

〈販売レコード店〉タマル本店、エル、ゼルbyタマル高松店、タマル太田店、ゼルbyタマル丸亀店、VOICE、DUKE



●オリジナルポストカード(7枚組) ￥500

これまでのセカンドハンドのスタッフツアー秘蔵写真の中から選びました。ハガキの表には、セカンドハンドからのメッセージも入っています。セカンドハンドをもっとたくさんの方に知っていただくために、是非使ってください。



●募金箱 無料

ご家庭、教室、職場、どこに置いてもOK!なお、募金箱は再利用してくださいね。

〈郵送での購入をご希望の場合〉

郵便振替口座に「CD希望」「ポストカード希望」「募金箱希望」など明記し、住所、氏名、希望枚数を御記入の上、商品代金に下記の送料を加えてご入金下さい。

送料

CD 500円(10枚以上無料)

ポストカード 90円

募金箱 160円(切手の郵送でも可)

口座番号 01620-6-60029

加入者名 NPO法人セカンドハンド



SPECIAL THANKS<敬称略>

【店舗・倉庫】GINCHO・樫村(丸亀町店)、丸亀TMO推進協議会(丸亀店)、弘陽商会(朝日新町)、金丸水産・中村(瀬戸内町)、富井(満濃町)【出店協力】エースワンサポート高松店、(株)セブンミート、【ニュースレター発送協力】三木中学校その他多くの方々【寄付】香川/池本正人、今井清、入江治子、牛熊等、大西徳子、岡野道子、奥谷順子、香川県自治研修所、久保智枝、黒田好子、坂元和子、清水純子、武田真左子、田中浩一、三谷範至、森谷芳子、安原智江、山田美智子、山本龍一、渡辺さと子、大阪/神本真友子、岡山/藤川幸恵、神奈川/林雅子、長山喜代子、埼玉/木村かおり、徳島/淵川朱美、奈良/玉置麗子、福岡/古賀邦雄、谷口富美子、針貝礼子、森一郎、吉野泰子【足踏みミシン輸送】テラシマミシン、林田物流(株)【その他】大山牧場、コスモ商事(株)、佐川急便(株)、セカンドフット、天勝(丸亀)、錦郵便局【印刷協力】アイニチ(株)

☑ 活動の輪が広がり学校建設も進んでいる様子、本当に素晴らしいと思います。一人でも多くのカンボジアの子ども達が幸せになります様、祈っております。(福岡市 吉野様)

◆◆各店・支部便り◆◆

セカンドハンドの輪を広げよう！
支部募集中！

福岡店

新しい福岡店がオープンしました！

今年1月末、梅光園店閉店後、新たな店舗提供者が現れ、5月9日にオープンしました。ゆったりした広さの建物で、木のぬくもりが感じられる素敵なお店です。

大家さんが販売される新鮮な野菜を買いに来られるお客様がセカンドハンドの活動を熱心に聞いて下さいます。

常連のお客様が励ましの声をかけてくださったり、時にはおいしい差し入れをいただくことも！

地域のみなさんとつながった楽しい空間です。

福岡市南区南大橋2丁目27-17 TOMOホーム
(西鉄大橋駅より徒歩20分)

毎週金曜日のみ、11時から14時までの営業です。

※南大橋店には電話がありません。

お問合先:福岡支部 木村 090-5746-3067

又は、福岡YWCA会館内フェアトレードショップ
Wピース(詳細P8)に、お越し下さい。

奈良でフリーマーケット

数年前からフリーマーケットに出店し、売上を寄付している奈良の玉置麗子さんグループ。例年は秋に出店していますが、今年は春にも!と4/29(祝)、奈良の平城宮跡で行われた平安遷都祭に出店しました。

玉置さんが自宅で開いているパン教室の生徒さんやボランティアで活動している人形劇団の仲間などに呼び掛けて提供品を集めました。前日は夜遅くまで準備。当日は高松でボランティアをしていた長富さんも手作り品を持って応援に!天候にも恵まれて多くの人でにぎわい、ほとんど完売しました。収益金は39,360円。売上金が寄付につながると知って、200円の商品を買うのに1,000円札を差し出して「おつりはいいよ」と言って立ち去られた方。商品を買わなくても「カンパ」と小銭を出して下さったおばさん。元気をたくさんもらった一日でした。



(敬称略)
後右から玉置、吉村、長富、深田、佐野

北海道支部

現在、月に一度くらいのペースですが、チャリティフリーマーケットやイベントに参加しています。

今後も、札幌を中心に少しづつでも活動の輪を広げていきたいと思っています。

そのため、現在札幌で提供品を保管するスペース(倉庫)を探しています。御協力をお願いします!!

連絡先:(担当)大波
090-2695-9390

川口支部

「川口ボランティア見本市」に出店!

台風の雨が残る中の搬入でしたが、午後からは晴れ間も出て大盛況となりました。

「できる人ができる範囲で」とうたっている以上、誰も手伝ってくれないという状況もあるはずなのに、当日8名、また当日参加できないからと4名が前日準備に駆けつけてくれました。主催者側の方からは「このテントは活発ですね」とか、所狭しと並んだ商品を見て「にぎやかですね」という声や、カンボジア商品を手に「あら、新製品ね」と言って買って下さる常連のお客様も何人かいらして大変嬉しく思いました。

今回の売上は合計で40,263円。

今後もチャンスをみつけてがんばります。

はじめまして、京都支部です。

セカンドハンドとの付き合いはまだ1年程度ですが、その実績とビジョン、そして、活動を支えるボランティアさんの生き生きとした姿に感動を覚え、私も支部として参加しました。

まだ、常設店舗はありませんので、バザー等で活動の宣伝や資金をつくりたいと思っています。常設店舗の開店の際には、是非、京都にお越し下さい。

【皆さんにお願いです】

近くにお住いの方で、一緒に活動してくれるボランティアさん募集中です。また、貸してくれる店舗、短期でも良いのでご紹介下さい。

連絡先は京都支部まで。(連絡先P8)

中学・高校生必読「小指会」発足!!

セカンドハンドに学生部ができました。

「小指会」とは、中・高校生が学校という枠を超えて一緒に考え、活動して国際協力を行なう団体です。「小指」はハンド(手)の一部、セカンドハンドの子どものような存在と考えて命名しました。

<発足の背景>

学校では多くの人が国際協力には関心を持っています。でも、参加方法が分からないため、まだ参加したことがないという人も多いようです。学生もできること、学生だからできることを考えて、まだボランティアとして参加していない学校や学生に参加を呼びかけていきたいと思い、小指会を作りました。

<活動内容>

1~2ヶ月に1回程度、部会を開きます。

セカンドハンドのチャリティーイベントのお手伝いはもちろん、小指会でイベントを企画したり、募金活動を行う予定です。将来的には小指会でカンボジアに学校が建てられたいなあ~と考えています。

この記事を読んで、少しでも興味を持ったなら、是非参加してください!! 学校という枠を超えて、カンボジア支援のために一緒に活動しましょう!

小指会一同

☑ 皆さん、いつもご苦労さま。年を重ねておりますので、寄付で応援させていただきます。(香川県 久保様)

information

ニュースレター発送作業

次回は10/19(日)の予定です。
単純作業ですが、多くの人手が必要です。
是非お手伝い下さい。
参加可能な方は本部までご連絡を!

ブランド品鑑定 ボランティア募集中!

シャネルやプラダなど、
鞆や香水の値段がわかる方、
偽/本物の見分けができる方を募集

使用済み切手 集めてます!

破れ・折れのあるものは不可、
周囲を5mm位残すなど規定があります。
詳しくはお問い合わせください。

提供品の受付

夏物衣類 8/31(日)まで
秋物衣類 9/1(月)～10/31(金)まで
シーズン外、虫食い、中古の下着(ソックス含)は×。
ご提供時のお願いがあります。
詳しくはお問い合わせください。

本部主催

チャリティーバザー

丸亀町レッツ(丸亀町商店街) 7/18(金)～21(日)
エースワン・サンポート高松店イベント広場
(JR高松駅隣) 9月&10月中旬
前日の準備、バザーお店番、片付けなどのボランティア募集!

書き損じハガキ 集めてます!

投函していないハガキを
ご提供ください。
ニュースレター発送時の
郵便書簡と交換します。
その分、支援に充てることができます!

セカンドハンド 事務所で使う 欲しいもののリスト

ガムテープ、セロテープ、
のり、ゼンリン住宅地図(香川県内)、
蛍光灯、ブルーシート、木材

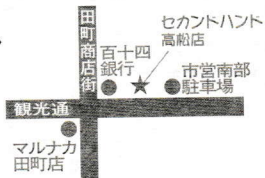
ボランティア 常時募集中!

お店番(特に平日夕方16時以降、
土日が不足)はじめ
作業・運搬ボランティアなど幅広く募集!
整理上手、トラックやワゴンをお持ちの方、
協力してください!

収支報告書は毎月セカンドハンド店頭で掲示しています。

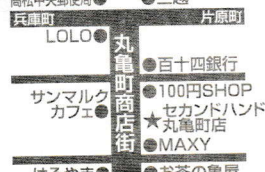
高松店

■高松店 <1F>
■セカンドハンド本部 <3F>
〒760-0055
高松市観光通1-1-18
TEL: 087-861-9928
営業時間:
10:00～19:00



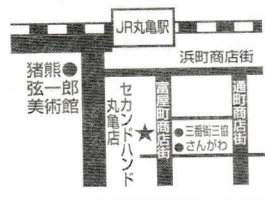
丸亀町店

■セカンドハンド丸亀町店
〒760-0045
高松市丸亀町14-5
TEL: 087-822-3552
営業時間:
10:00～19:00



丸亀店

■セカンドハンド丸亀店
〒763-0021
丸亀市富屋町30-1
TEL: 0877-25-2876
営業時間:
10:00～19:00
ボランティアスタッフ不足のため営業時間が不定です



支部

■セカンドハンド福岡支部
木村 090-5746-3067 (E-mail) rkimura@highway.ne.jp
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-8-15
福岡YWCA会館 フェアトレードショップWピース
※カンボジア商品のみ販売しています
(火～土 13:00～17:00)
南区南大橋で毎週金曜日出店!

支部

■セカンドハンド川口支部
代表 早船 森田 090-4169-9940
(E-mail) tsubasa@i-staff.co.jp
(Homepage) http://www.i-staff.co.jp/2nd-hand/
■セカンドハンド大阪支部
徳 070-5680-0109
(E-mail) tokuyo@d1.dion.ne.jp
■セカンドハンド北海道支部
大波 Tel:090-2695-9390 Fax:0144-76-1136
(E-mail) satomie@seagreen.ocn.ne.jp
■セカンドハンド京都支部
浜本(きょうとサポートハウス内)
Tel:090-6971-7305 Fax:075-752-3076
(E-mail) shmkyo@sea.plala.or.jp

倉庫

金丸水産2F 弘陽商会1F★
消防署 山内GS 宮崎カルチャースペース
マルヨシセンター 高松中央卸市場 さぬき浜街道 競輪場
高松市瀬戸内町金丸水産2F 倉庫作業員 高松市朝日新町弘陽商会1F
〈木〉9:00～16:00 〈水〉13:00～17:00
〈金〉10:00～17:00
TEL: 070-5184-6990

※商品を郵送する場合には高松店にお願いします

☆このニュースレターは3ヶ月に一度5000部発行しています。
封筒作り、発送作業等をボランティアで行い、約4200部を全国の
の支援者へ無料で発送しています。購読ご希望の方は、ハガキ、FAX、
メールなどでお申し込み下さい。